

ペダルを回せば地域が見える ～「移動」から未来を考える～



NPO法人エコ・モビリティ サッポロ

名 称	特定非営利活動法人 エコ・モビリティ サッポロ
代 表 者	栗田敬子
設 立 目 的	地球温暖化の防止および地域活性化の観点から、 今後の札幌にふさわしい都市交通の推進と地球環境保全に 寄与することを目的とする。
設 立	2008年3月（法人格取得）
住 所	札幌市中央区北1条東7丁目10-58

北海道の素晴らしい環境を
子供たちの世代に引き継ぐ為に・・・



ベロタクシーで削減できるCO2排出量

ベロタクシーCO2排出量 9g/1km

ガソリン車の代わりにベロタクシーで移動した場合、
1kmあたり約223gのCO₂の排出を削減します。

2008～2014年度 合計CO₂排出削減量

※2008年度～2014年度運行合計

9,820.61kg

08～14年度 合計乗車走行距離

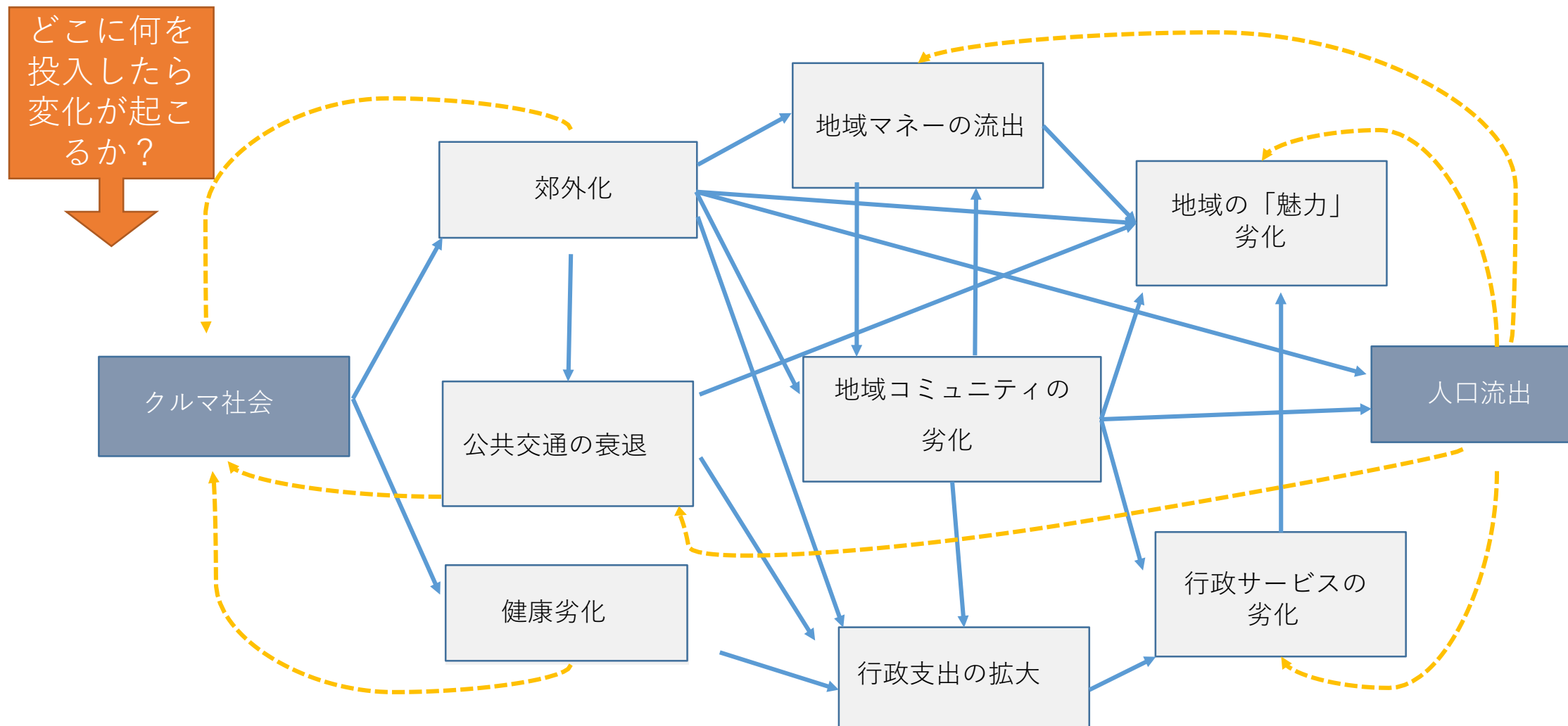
44,038.60km



●1kmあたりの各CO₂排出量／ガソリン車232g (札幌市環境局試算)、ベロタクシー9g (エコ・モビリティ・サッポロ試算※)

※ベロタクシーを1km走行するのに使用する電動アシストの平均消費電力18.8WHを北海道電力 (平成19年度) CO₂排出係数0.000479t-CO₂/KWHで試算。

クルマ社会が、地方を疲弊させるメカニズム



南区真駒内エリアに焦点をあてた活動

2015年より地元商店街と協働でベロタクシーを活用した買い物支援等の実験を実施。今後の真のニーズを把握し、自然豊かで暮らしやすいまちづくりに向けた共通認識と優先順位の可視化に向け、住民自身が主体的に担う持続可能なまちづくりを目指すことを目的とし事業に取り組んでいます。



モビリティで街を考える

未来の真駒内の街並み姿を導く
住民の意見が反映されたまちづくりを実現する
「未来の真駒内」を一緒に考えてみましょう

真駒内タウンミーティング

まちづくりの未来を一緒に考えてみましょう
住民の意見が反映されたまちづくりを実現する
「未来の真駒内」を一緒に考えてみましょう

8/26 16:00-18:00 入場無料

会場：札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1

8/23

**モビリティから考える
真駒内まちづくりシンポジウム**

10/22 sun
14:00-17:00

入場無料
定額100円

会場：札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1

**フォーラム
様方 淳子さんと考える
真駒内
未来のコミュニティ**

1/20 13:30-16:00

会場：札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1

エコ・モビリティ サマサマ フォーラム

ひと中心の × 行動デザイン
まちづくり
から見てくる真駒内の未来とは

みんなで探そう！「未来のコミュニティ」
真駒内クラシックリ会議 2020

2020年1月19日(日)
13:30 - 18:30 (開場 13:00)

札幌エルプラザ2F 環境研究館 会議室1・2
(〒060-0808 札幌市東区北一条西5丁目)
【定員】約80人 【参加費】無料(事前申し込み)

**真駒内ふゆあそび&
ゆきまるしえ**

2020年
2月8日(土)
10:00 ~

会場：札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1
札幌市南区真駒内中央2丁目2-1

真駒内での運行の取り組み

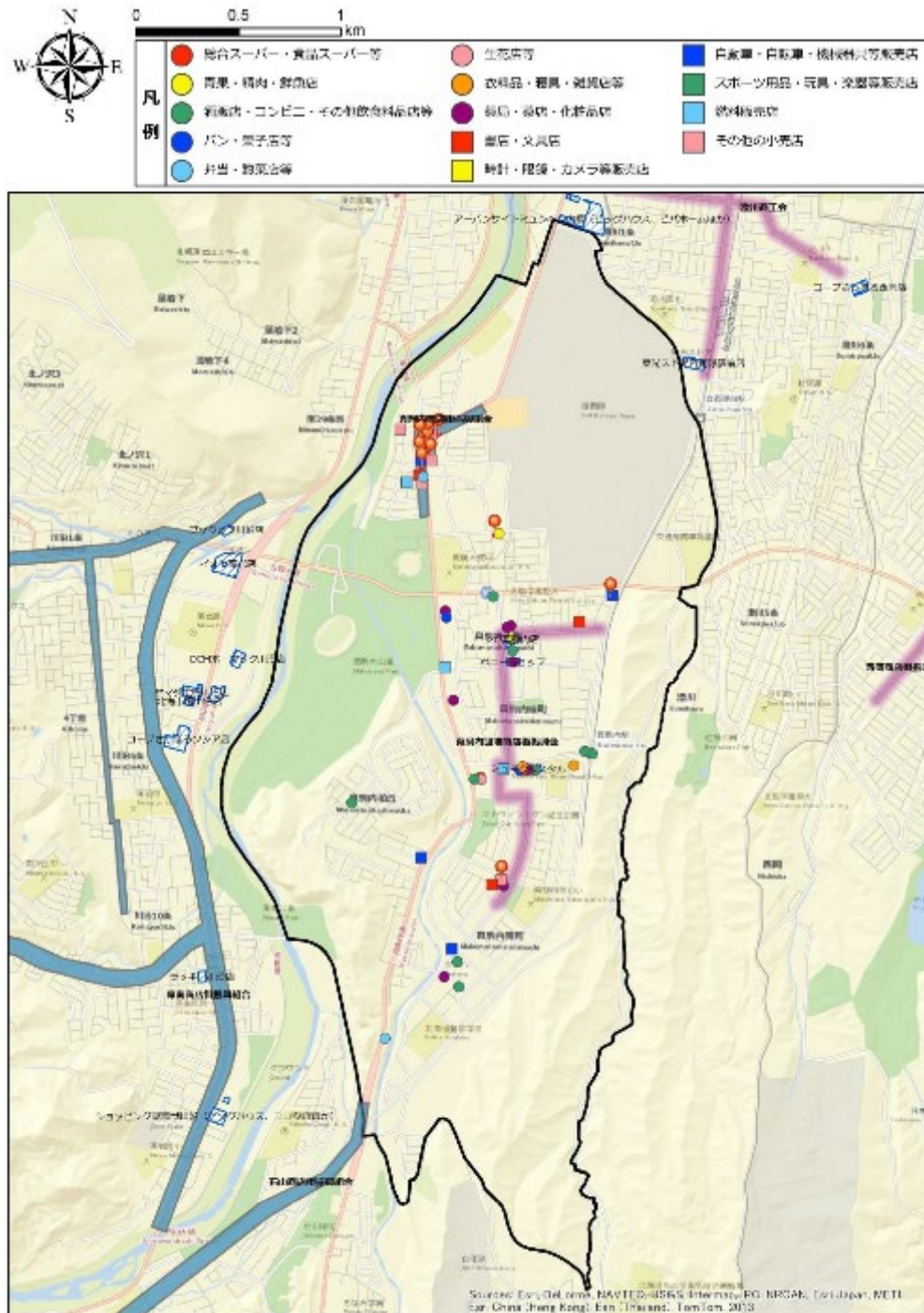


- ・ 冬季オリンピックの主会場として施設整備がすすめられたエリア
- ・ 土地利用が明確に区分され計画的に整備された街
- ・ 人口減少と少子高齢化が進行
- ・ 小学校の統廃合と閉校後の課題

札幌市南区の人口 約14万人 62,000世帯
真駒内公園おおむね半径2kmの人口約5.8万人

真駒内駅前地区まちづくり指針（平成25年5月）

- ・ 安全で安心な暮らしを支える機能の確保
- ・ 多様なコミュニティ活動が展開する場の形成
- ・ みどりと歴史を感じ、環境にもやさしい街並みづくりを目標としている



<背景・経過>

●真駒内という地域特性

札幌冬季オリンピック（1972）インフラの開発整備された地域。その後、緑豊かな新興住宅街、急激に人口を増加 約50年経過
現在 高齢化の進展、建物の老朽化、若年層の移出による学校閉鎖
⇒地域の大きな社会問題となっている。

●高齢化の移動と商店街の衰退

札幌市内でも最も高齢化が進む地域、自動車免許返納者増。一方近隣商店の閉店が進み徒歩圏の買い物が困難となってきた。スーパーの巡回バス等が導入されているものの、個別の自由な移動ができない。

●海外の事例では、高齢者や障がい者の移動手段として、すでに英国や米国等では2000年代初頭から電動スクーターや車いすを利用する「ショッピングモビリティ」が民間主導で事業化され、普及している。

●2000年代の中盤には、日本においても「タウンモビリティ」という名称で導入が試みられたが、実際には普及せずに、現在に至っている。

●新たな移動手段に対する取り組みは、環境の側面からは化石燃料を使用する自動車利用の削減、コミュニティのコンパクト化、マイクログリッド等による効率的なエネルギー利用等の多様な分野における知見・知識が必要であり地域において視野を広げて議論していくことで、次世代の低炭素社会への貢献が期待できる。

2017年度

「低炭素コミュニティ創造@真駒内に向けたプレ・アクションプログラム」 はじめる助成

活動概要

少子高齢化の進む札幌・真駒内地区をモデルとして、世代間や障がいの有無の垣根を越えた誰もが住みやすい低炭素なコミュニティはどうあるべきかを議論し、未来に向けた持続可能なコミュニティの実現のきっかけづくりとなる以下の事業を行う。



1. 地域の**現状を把握**するため、外出機会、移動手段や新たな移動に対する住民**意識調査**を行う



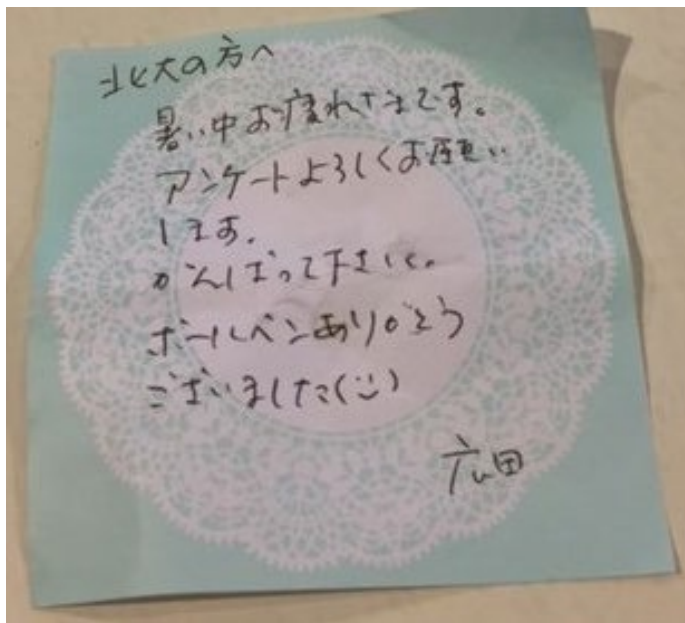
2. 住民意識調査結果より、課題、問題点、ニーズ等コミュニティで共有し、未来の真駒内について**議論の場**を提供する



3. 専門家による**シンポジウム**を開催し、持続可能なコミュニティの実現に向け参加者に**情報発信**する

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
意識調査項目検討 協働先：北海道大学環境社会心理学研究室	タウンモビリティ企画、講師依頼	住民意識調査の設計、実施	住民意識調査の集計、分析	真駒内タウンミーティング「ショッピングモビリティ（札幌市立大 蓮見孝学長）」	真駒内タウンミーティング「まちづくりコンペ受賞者」	10/21（土）Low Carbon Forumの開催 基調講演 村上敦氏	—	—	子供向けモビリティワークショップ ショップ

活動1. 住民意識調査の実施

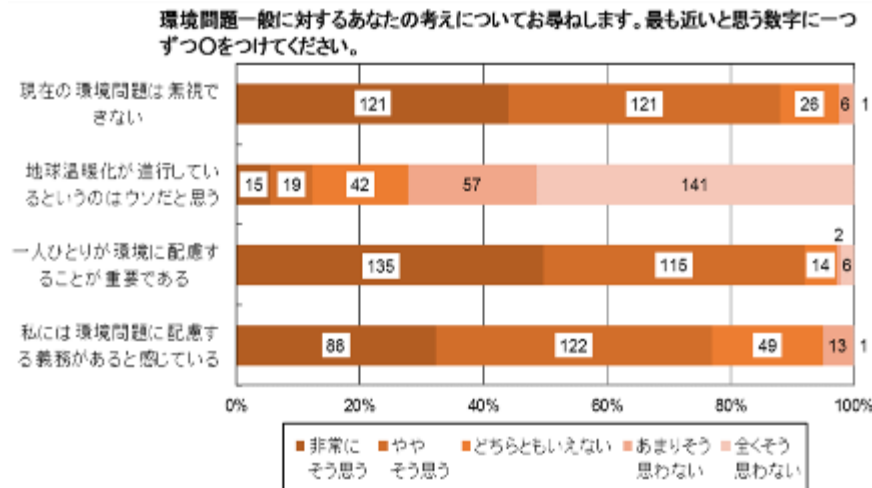


移動に関する意識調査

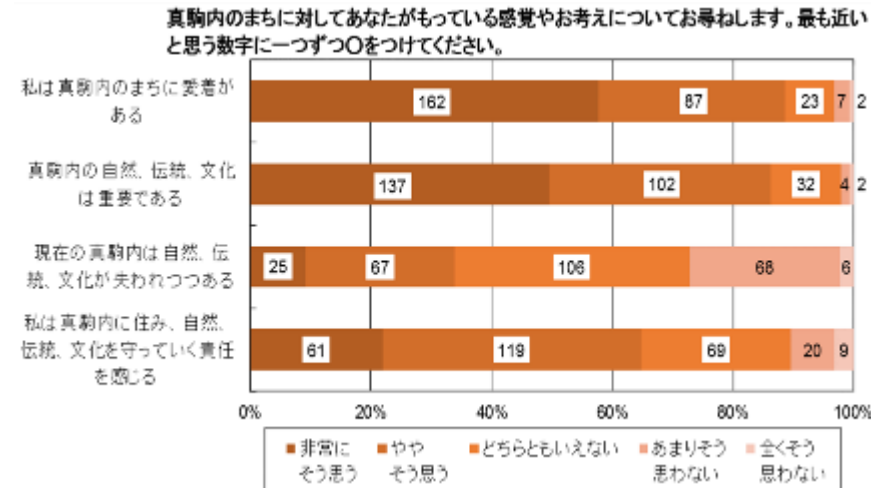
少子高齢化社会における社会的弱者のモビリティ（移動可能性）確保に向けた調査 札幌市真駒内地区における住民の環境に配慮した移動手段利用意図の規定因 (jst.go.jp)

- 対象地域：真駒内エリア
➤ 曙町、上町-緑町、五輪団地、泉町、南町、柏丘の6個のブロックに分けて実施
- 対象者：真駒内地区の住民 調査実施時期：平成29年7月30日および31日の2日間
- 回収数：総回収数289（曙町41、上町-緑町37、五輪団地38、泉町49、南町58、柏丘51、特別サンプル15）

環境問題に対する意識



真駒内地域への愛着



新しい乗り物の普及は、環境や福祉、商店街の活性化、魅力的なまちづくりにつながるという複合的な便益を強調することで、多くの地域住民が評価し利用する。

モビリティで街を考える

未来の真駒内の移動可能性を探る
低炭素コミュニティ創造 @ 真駒内に向けた
プレ・アクションプログラム

第1回

真駒内タウンミーティング

世代や障害の有無など垣根を超えた誰もが住みやすい低炭素コミュニティのあり方について考えるきっかけを作ります。

入場無料

8/26 土 16:00-18:00 定員 **50**名

会場 札幌市立大学 COC キャンパス 2 階まちの講堂
札幌市南区真駒内幸町 2 丁目 2-2 まこまる内

タイムスケジュール

第1部 16:00-17:00	「ショップモビリティ」と真駒内の可能性 講師：蓮見孝（札幌市立大学学長） *1 真駒内ショップモビリティについての説明があります
第2部 17:00-17:30	「真駒内エリアにおける 移動に関する意識調査の報告」 報告：北海道大学環境社会科学研究室

お申し込み

NPO法人 エコモビリティサッポロ

TEL 011-788-5480
MAIL info@velotaxi-sapporo.jp

**お申し込み
締め切り
8/23 木**

蓮見 孝

略称

1948年神奈川県生まれ、東京教育大学卒、博士（デザイン学）。

1971年日産自動車（株）入社、モデル課長、エクステリアデザイン室代表室長等歴任。ロイヤル・カレッジ・オブ・アート卒業。

1991年筑波大学に転籍、芸術系教授、芸術専門学級副学長、芸術校舎長、学長補佐等歴任。

2012年から札幌市立大学学長。



あつまる、つながる 真駒内の新しい力

真駒内

真駒内タウンミーティング

真駒内では最近、地域を活性化させようとする新しいアクションが次々と生まれています。真駒内の中心は 300-40 代の若者で、これまでになく新しい視点や知識で地域を創っています。これら、従来の真駒内の新しい力となる若者たちが一堂に集って地域の課題や可能性を共有し、未来の真駒内について考えていきます。

9/23 土 14:00-16:00 定価 50 円

会場

真駒内総合福祉センター
札幌市南区真駒内草苫丁 1-5
（近江ノ子公園駅より徒歩 10 分）

お申し込み

申し込み
エコマビリティサポーター

TEL 011-755-5480
MAIL info@velotaxi-cappara.jp
URL <http://velotaxi-cappara.jp/>

お申し込み
締め切り

9/21 木

第1部 14:00-15:00

テーマ1 「スモールエリアの触れ合いと協働の活性化」

●登壇：林 真由（はやし まゆむ）さん
大塚区民協生活委員、筑波大学大学院修士課程修了後、独立行政法人都市再生機構に入社し、札幌市内で都市計画・都市環境コンサルティング等に就任。2013 年から札幌市立大学大学院修士課程修了後、札幌市で都市環境政策化プロジェクトをスタート。また現在は環境政策研究、社会や都市環境アドバイザー、に別府市環境委員会委員、NPO 法人友愛に就ける特別顧問兼コンモビリティのためのしくみ開発研究、ミズベリングに就任後、北海道アスリートの会事務局長。

テーマ2 「真駒内のリノベーションまちづくり」

●登壇：井田 大樹（いわた だいきり）さん
札幌市生まれ。札幌から大学進学でまで真駒内に移住。北海道大学大学院修士課程修了後、独立行政法人都市再生機構に入社。主に札幌の都市環境政策に就任。2014 年札幌市立大学真駒内の入居を促すまちづくりアイデアコンペにて、最優秀賞を受賞。同年、コンペの応募チームを母体とした住居型施設「まちまなひ」を設立。建築士（建築専門）、一般職、札幌市アスリート、

第2部 15:00-15:40

「つながる、あつまる、真駒内の新しい力」

～真駒内によるまち再生デザインセッション～

参加者60名 満足度

目的

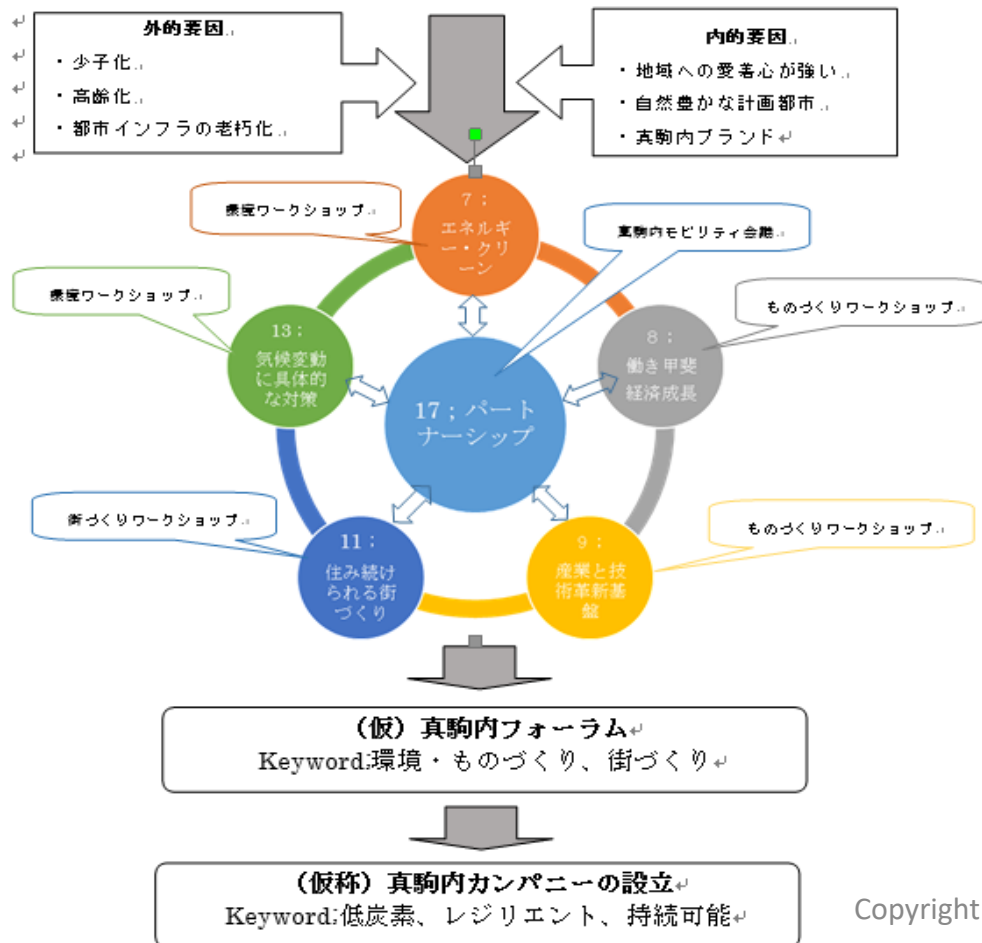
“～真駒内の自然、歴史、地域文化を大切にしながら、真駒内に関わる様々な人のアイデアを活用し、しなやかで持続可能なコミュニティの再構築を目指す。”3か年計画（2018～2020）→新型コロナウイルスの影響により一部2021年へ繰越



2018年「楽しく快適なSDGsコミュニティの創造（1年目）」

真駒内の自然、歴史、文化を大切にしながら、関わる人々のアイデアを出し合い、しなやかで持続可能なコミュニティの再構築を目指します。

3か年の計画イメージ



【活動1：まちづくりステップアップセミナー＆ワークショップ】

SDGsを理解し地域のステークホルダーと共に真駒内SDGsを作成
第1回 7月30日

「国連SDGsとは？-2030年に向けた持続可能な社会のつくり方-」

講師 佐竹輝洋氏（札幌市環境局 環境都市推進部）

第2～4回 8月9日 9月4日 10月3日「真駒内SDGsを創っちゃおう」



【活動2；買い物支援システム及び真駒内Low Carbonマルシェ開催に向けた企画開発】

買い物難民を想定したITと低炭素モビリティによる地域商店街と連携し配送の仕組み構築。並行して低炭素モビリティに触れる機会が少ない実情を考慮し、北海道のものづくり中小企業の連携による寒冷地向け電気自動車及び次世代モビリティを使用。また、地域内商店街や真駒内近郊の農家とその耕作支援を行う団体等と連携し、マルシェ開催に向け先進事例調査実施。

【活動3；「真駒内×未来のコミュニティ フォーラム」開催】

コミュニティの本当の意味やこれからの姿を地域住民が考え、行動につなげるためフォーラムを開催。講師に環境ジャーナリスト枝廣淳子氏を迎え、地域経済について新たな考察と地域循環経済を実行して変わりつつある先進事例の紹介。

フォーラム 1月20日（日）開催 南区民センター満席（60名）

2019年「楽しく快適なSDGsコミュニティの創造」2年目 ———

真駒内の自然、歴史、文化を大切にしながら、関わる人々のアイデアを出し合い、しなやかで持続可能なコミュニティの再構築を目指します。

上町商店街から世界へ 地球と子どものための真駒内の暮らしづくり

2019年度 軸となる活動 目標11「住み続けられるまちづくりを」目標17「パートナーシップで目標を達成」

地域の皆が自由に使える
「おうち」を創ります。

でも、単なる「おうち」じゃありません。

地球と子ども達にとってもいい、
真駒内でしか体験できない

「暮らし」そのものを創ります。

真駒内を世界に誇る街にしたい

2つの視点

- ・ 持続可能で常に新しいことが生まれている
- ・ 存在すること自体が地球環境改善の発信になる

SDGs

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標

LEED

Leadership in Energy & Environmental Design
世界で最も広く利用されているグリーンビルディング評価システム



【活動1：まちづくりステップアップセミナー＆ワークショップ】

初年度に実施した真駒内版SDGsから実践し深掘するワークショップ実施とSDGsに関する最新情報を共有するためのセミナーを開催。

ワークショップ

第1回 6月30日

「上町商店街に挑戦者のための「場」を創るプロジェクト」42名

第2回 9月22日 10月5日

「Co-MEGANE DIYワークショップモバイル屋台製作」28名

SDGs最新セミナー 「GBJセミナー「環境」と「健康」のグローバル評価基準、LEEDやWELLを仕事にすること」19名

【活動2：「真駒内Low Carbon商店街の企画に向けた取り組み」】

1年目の調査・検討結果を踏まえて、空き店舗のある地域内商店街をフィールドに、真駒内SDGsを実践する実験企画を開催。地域の団体と連携しながら、その際に、買い物難民向け宅配送のシステムをバージョンアップした仕組みを実証。

真駒内Low Carbonマルシェ開催2回

「上町マルシェ（10月19日）」約100名

「真駒内ふゆあそび&ゆきまるしえ（2月8日）」

配送システム基本設計書作成

【活動3：フォーラム開催】

初年度検討した環境配慮型の事業化検討結果に基づき、事業化の具体化を推進する。これまでの活動の発信と学びの為のフォーラムを開催。

事業化構想検討会 5回

フォーラム 1月19日「みんなで探そう未来のコミュニティー真駒内クラシヅクリ会議2020」



- 実学の場合（学習教育フィールドの構築）
- 豊かな社会経験や社会性・人間性の養成
- AIに負けない人材の育成（将来）
- まちづくりにおける高校の新たな存在価値
- 教育課程の充実（RESESを活用した地域課題解決能力の向上）
- 「総合探究」の時間の充実

＜増減率の式＞

- ・ハードだけではなく、まちづくりの担い手や組織の育成（関係内野筋構築等との連携も視野に）
- ・高齢化の進む地域コミュニティに新たな発想や人材を補強し、活力・推進力を向上
- ・持続的な多世代交流モデル
- ・若い拠点や活動への援助。まちづくりを「シブンボト」とする機運の醸成。
- ・格別の人材育成に資する「関係人口」づくり

項目	活動内容（例）
学習・交流	真駒内ビジョンを検討・実施する「真駒内クラシヅクリ会議」 高校生の活躍の場（まちづくり活動や起業支援等）Co-MEGANEフォーラムやセミナーの企画立案・実施 地域総合型スポーツクラブの運営（多世代交流の場） 街中を教育・実践の舞台とする「教育キャンプ」の実施 高校間連携プログラムの企画運営（フィールドと生徒のドマッチングも）
調査研究	LEED取得に向けたモニタリング、あけぼのテラスマーケット調査 都市計画・まちづくりに関するコンサルティング（ヴォンエルフ）
社会実験	商店街、緑道、公園、団地内オープンスペース等を活用した社会実験（パブリックスペースを核としたエリア価値向上へのチャレンジ）
情報発信	高校生ライターネットワークの運営 ホームページ、Facebook等SNS利用、フライヤー、冊子発行（地元ラジオと連携した取組紹介の番組放送など） HUBER（地元紹介） 遊休不動産とチャレンジャーのマッチング

公園、河川、緑道、広場などの公共的資源や空き家・空き室等の遊休不動産をチャレンジと学びの舞台に活用する。



SDGsを理解し地域のステークホルダーと共に真駒内SDGsを作成



1 貧困をなくそう これまでの取り組みでできたアイデア ・行政よりも住民が動こう ・お金を真駒内で循環するシステムをつくる ・市南区暮らしのための仕事をつくる	2 飢餓をゼロに これまでの取り組みでできたアイデア ・地域食堂の場の提供 ・お母さんが子供の朝ご飯を作ることから始めよう ・古い物が困っている人へペロタクシーを渡転して届け、地域の高齢者の方と交流を生む
--	---

9 産業と技術革新の基盤をつくろう これまでの取り組みでできたアイデア ・四季を通じて利用できる常気自動車、 道内の技術を活かす ・地域内の移動を楽にする 交通システムをつくろう	10 人や国の不平等をなくそう これまでの取り組みでできたアイデア ・地域コミュニティに外国人も参加してもらおう ・ホームステイ、民泊をオープンに 受け入れる場を創ろう ・地域の資源を活用して海外と地域をつなぐ場	11 住み続けられるまちづくりを これまでの取り組みでできたアイデア ・女性も男性も子育てしながら働けるまち ・子どもから大人までが地域のくらしに 関わっていけるまち
---	---	---

3 すべての人に健康と福祉を これまでの取り組みでできたアイデア ・自分の周りに声をかけられる 優しいまちにしよう	4 質の高い教育をみんなに これまでの取り組みでできたアイデア ・みんなで時間をかけて学びあう ・やりたいことができる環境をつくる	5 ジェンダー平等を実現しよう これまでの取り組みでできたアイデア ・多様性を認め合う、売りにするまち
--	---	--

12 つくる責任 つかう責任 これまでの取り組みでできたアイデア ・つくる楽しみから愛着を持ち、 ものの量かさを知ろう ・〔あなたの?〕捨てるものは 〔みんなの?誰かの?〕資源 わけあえる譲り合えるまち ・物を最後まで使い切り、 そこで働く場ができる、循環型のまち	13 気候変動に具体的な対策を これまでの取り組みでできたアイデア ・24時間営業をなくす。 夜を取り戻すライフスタイル。 ・エコな住宅改修のススメ	14 海の豊かさを守ろう これまでの取り組みでできたアイデア ・売る側も買う側もただの売買でない 環境を守る関係性をつくろう ・自分のごみの行く末に興味を持つよう
---	--	---

6 安全な水とトイレを世界中に これまでの取り組みでできたアイデア ・水資源を守るため、環境の確保、 土地の権利を守る行動をする	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに これまでの取り組みでできたアイデア ・南區らしい自然いっばいのエコライフスタイル。 高齢でも元気、地産地消のプロ。 ・子どものもののづくりの材料に、企業の廃材や 輸の不要なもの、農家さんの廃棄物を使う。	8 働きがいも経済成長も これまでの取り組みでできたアイデア ・団地の中に子どものものづくりの場を 技術を持った高齢者に雇用の場が生まれる ・自分のやりたいことが見つかるまち
---	--	---

15 陸の豊かさも守ろう これまでの取り組みでできたアイデア ・食料生産の場を分散し(リスクを減らし)、 地元で(地産地消しよう) ・熊と共存することを考えよう	16 平和と公正をすべての人に これまでの取り組みでできたアイデア ・自分だけ良ければではなく 「みんなで」が大切 ・声をかけ合えるまちづくりで、 真駒内の平和を育む	17 パートナースhipで目標を達成しよう これまでの取り組みでできたアイデア ・人と人がつながる機会をつくる ・趣味や特技を活かせる場をつくる
--	---	--

注意

本企画はイベントではありません。
関係者のみの開催の期間です。

高校生の活動をこじろす関係者のみで
企業として活動するために市
内の高校生が考え抜いた案面のアイディアをぜひ実際に体験してください。

真駒内であそぼう。

あけぼのテラス×上町マルシェ

フスエスバイ
FESTIVAL STAND BY

後日本格開催

2020.11.21 sat
UR あけぼの団地集会所
真駒内上町名店街

主催 特定非営利活動法人 エコ・モビリティサポート
共催 commons fun さっぽろまなびづくり社
協力 真駒内名店街、UR あけぼの団地自治会有志、一般社団法人さっぽろ下町づくり社

参加校：市立札幌南中等教育学校
市立札幌北高等高等学校
市立札幌深岩高等学校

QRコード

[illegible]

②「脱炭素と生活支援」をテーマとした、買い物支援事業の開発

2021年 配送アプリ「マコバリ」地域配送実験



ステップ1イメージ

【お客様側】



専用フォーム
(HPに設置)

メール使用

データはWeb
アプリで管理

Webアプリ

Webアプリ使用
データ入力

【運営側】



配送情報の確認

配送票の出力

各種データの入
力/編集/閲覧

お客様権限でログイン
[この権限でできること]

- ・自身の配送依頼全般
- ・配送票控え印刷
- ・自身の配送履歴確認
- ・自身の会員情報登録変更
- ・自身の退会

運営側権限でログイン
[この権限でできること]

- ・すべての配送依頼全般
- ・すべての配送履歴確認
- ・配送票印刷, 月次日次データ印刷
- ・すべての会員情報登録変更
- ・マスタ保守 (会員情報など)

独立行政法人環境再生機構 平成30年度地球環境基金助成

フォーラム

えだゆ じゅんこ
枝廣 淳子さんと考える

真駒内

未来のコミュニティ

コミュニティの本当の意味や未来の姿をみなさんと共有し、
行動につなげるための考え方、事例や手法を知る。

1/20 SUN 13:30~16:00

開場 13:00

参加無料

要申し込み 先着 60人

プログラム

司会進行 宮本 義弘

枝廣 淳子氏による講演

13:30~14:30

講演テーマ 「未来は地域にある！
持続可能で幸せな地域経済を創る」

パネルディスカッション

進行 枝廣 淳子氏

14:40~16:00

登壇者 真駒内商店街振興会 会長 山下 晴男氏
真駒内駅前のまちづくりを考える会 代表 宮本 義弘氏
commons fun（まこまなび研究所） 林 広志氏

会場

南区民センター 2F 視聴覚室 AB
札幌市南区真駒内幸町2丁目2-1

地下鉄真駒内駅から徒歩5分

お申し込みの際は公共交通機関のご利用をお願いします。

枝廣 淳子氏

大学院大学政策戦略院、社会経済社会研究所
所長、環境ジャーナリスト、地域経済循環や
環境問題に関する講演、執筆、異業種勉強会
等の活動を通じて「伝えること、つなげること」
で社会を創り、しなやかに強く、幸せな未来
の創りをめざす。北海道下川町や島根県海士
町（あまちょう）等では、意見ある未来を強く
地域創生と地域経済を創りなおすプロジェク
トにアドバイザーとしてかかわっている。

著書、著訳書

「不都合な真実」（2007年ランダムハウス講談社）
「レジリエンスとは何かー何があっても折れない
ところ、暮らし、地域、社会をつくる」
（2015年東洋館出版）

「地域経済を創りなおすー分析・助言・対策」
（2018年2月 岩波書店）

ほか多数

エ コ ・ モ ビ リ ティ サ ッ ポ ロ フ ォ ー ラ ム

ひと中心の まちづくり × 行動デザイン

から見えてくる真駒内の未来とは

持続可能な都市、地域づくりには、今までの経済効率優先のまちづくりではなく「自動車」から「ひと」中心のコンパクトな街への変革が必要です。本フォーラムでは国内外の環境性能認証事例とそこで暮らす人、生物の行動について行動科学や進化生物学などの視点から、行動デザインを活用したアプローチなどの講演、およびトークセッションと札幌市のSDGsの取り組みを紹介します。

みんなで探そう！「未来のコミュニティ」

真駒内クラシビズクリ会議 2020

2020年1月19日（日）

13：30 - 16：30（開場 13：00）

札幌エルプラザ2F 環境研究室 会議室1・2

（〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目）

【定員】約80人 【参加費】無料（事前申し込み）

Program 1 講演会

『見えにくい価値を可視化し、「ひと中心」の街への転換を促す仕事』

平松 宗城氏
関ワゴンエルフ 代表取締役

建築PFO（JCA）を経て、社会起業家として2006年に「関ワゴンエルフ」を立ち上げる。近郊農村から公的機関、民間企業、金融システムとの複層的な連携を実現することで、持続可能な都市デザイン再構築を目指す。2013年、一般社団法人グリーンビルディングキャンペーンを立ち上げ、民間代表理事として、LEEDやBREEAMの普及も務める。

『生物学からみたまちづくり』

小松 正広氏
小松 研究事務所代表
多摩大学情報社会学研究所客員教授

2004年に独立して個人事務所（小松研究事務所）を開業し、『施設系研究家』として活動している。専門は生態学（産生生態学・行動学・生態学など）生態学分野で使われる統計手法やデータマイニング手法を導入し、さまざまな研究機関の研究プロジェクトに参加しており、生物学的視点に基づいたセンサの開発など、今までになく挑戦を続けています。著書『動物はヒトの感情を理解する』『はじめは全知全能だった』『暗黒社会のソーシャルゲーム』情報社会学者編著。等。

Program 2 パネルディスカッション

『住み続けられるまちづくりとは何か』

林 隆宏

コヴィンテージ

厚田 宏城氏

株式会社ワゴンエルフ

小松 正広氏

小松研究事務所代表

佐竹 輝洋氏

パネリスト

パネリスト

堀内 紀久美氏

真駒内地区活性化協議会

パネリスト

福垣 英典氏

札幌市環境局

竹田 真唯氏

札幌市環境局

パネリスト

パネリスト

⑨活動の実施スケジュール（1年目～4年目）

注意：要望活動が複数年次にわたる場合、複数年次にわたる実施スケジュールを記載してください。

[illegible]

2020～21年「楽しく快適なSDGsコミュニティの創造」3, 4年目 3ヶ年計画の出口に向けて

真駒内の自然、歴史、文化を大切にしながら、関わる人々のアイデアを出し合い、しなやかで持続可能なコミュニティの再構築を目指します。



1. 誰もがつながり、まちづくりをジブンゴトとして考え、学ぶ「場」と「機会」を創出する。



2. 地域資源の再発見と環境配慮型の次世代移動手段の可能性を見出す。



3. 地域住民以外にも、多様なセクターが連携し持続可能なコミュニティ創造を牽引

教育×まちづくりに特化

Low Carbonを軸とした買い物支援システム企画開発

地域循環共生圏を見据えたプラットフォームの設立

2021年「まなびまくり社実行委員会」スタート

2021年 配送アプリ「マコバリ」地域配送

2021年「みなみ区SDGs作戦会議」として開催

持続可能なまちづくりに向けて

持続可能なまちとは、経済力の異なる多様な人々が生活したり働いたりできる場所

移動 選択肢がクルマだけではなく、多様な手段を選択できるように

さらに 交通を変えることはCO2排出量目標達成のため早くて効果的

今後期待すること

- ・経済成長を前提にしてきた社会から多様なライフスタイルへの転換。
- ・個人的便益から地域便益への意識改革。
- ・官民、世代の分断をつなげるハブの重要性。